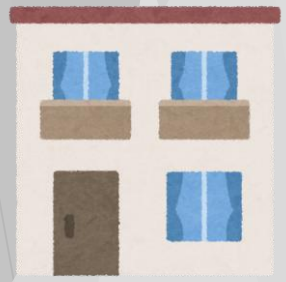
グループホームみなとや
2026年度地域連携推進会議

2026年10月7日
14：00～16：00

社会福祉法人つくりっこの家
グループホームみなとや



本日の内容

- ごあいさつ
- 自己紹介
- 施設概要ならびに利用者について　（14：10～14：40）
- 権利擁護について　（14：40～15：00）
- 地域との連携について　（15：00～15：20）
- 施設内ご案内　（15：20～15：30）
- 質疑応答・ご感想（15：30～15：50）
- 閉会

社会福祉法人つくりっこの家
理念

「障害」のある、なしや、年齢を超えて、人と人とが出会い、それぞれの持ち味を生かして、ともに生き、ともに働く（非分類協働）ことで支え合う関係を作り出す。
「わけるとふえる」ことの豊かさを地域に自然な形で広げていく。

この理念を、住まいの場でも実現したいと思い「グループホームみなとや」をつくりました。



施設概要

私たちのグループホームは「コレクティブハウス大泉学園」（別途資料）の中に併設されています。



グループホームみなとや（共同生活援助）

定　員　　4名

居室および設備

メンバー居室4室（約８畳フローリング、トイレ、ミニキッチン）

交流室1室（スタッフ事務室　キッチン、トイレ、洗面室、浴室）

その他設備（コレクティブハウス併設設備）

24時間風呂、ランドリールーム、共有スペース（リビング、キッチン）

トイレ、屋上テラス、倉庫、駐輪スペース



障害者グループホームとは？

障害のある方の特性や環境に応じて、必要な支援やサポートを受けながら、
共同生活を行うことができる住まいのことです。
法律（障害者総合支援法）で定められている障害者福祉サービスのひとつです。

施設概要～入居者・支援体制～

- メンバーの在席年数と年齢分布

在籍年数　（単位：人）

	男性	女性	計
3年以内	1	0	1
4～7年以上	2	1	3
計	3	1	4

年齢分布　（単位：人）

	男性	女性	計
30代	0	0	0
40代	2	0	2
50代	1	1	2
計	3	1	4

- 職員支援体制

  管理者/ サービス管理責任者（兼務）　1名

  世話人　7名（パートタイム職員含む）

- 主な支援内容

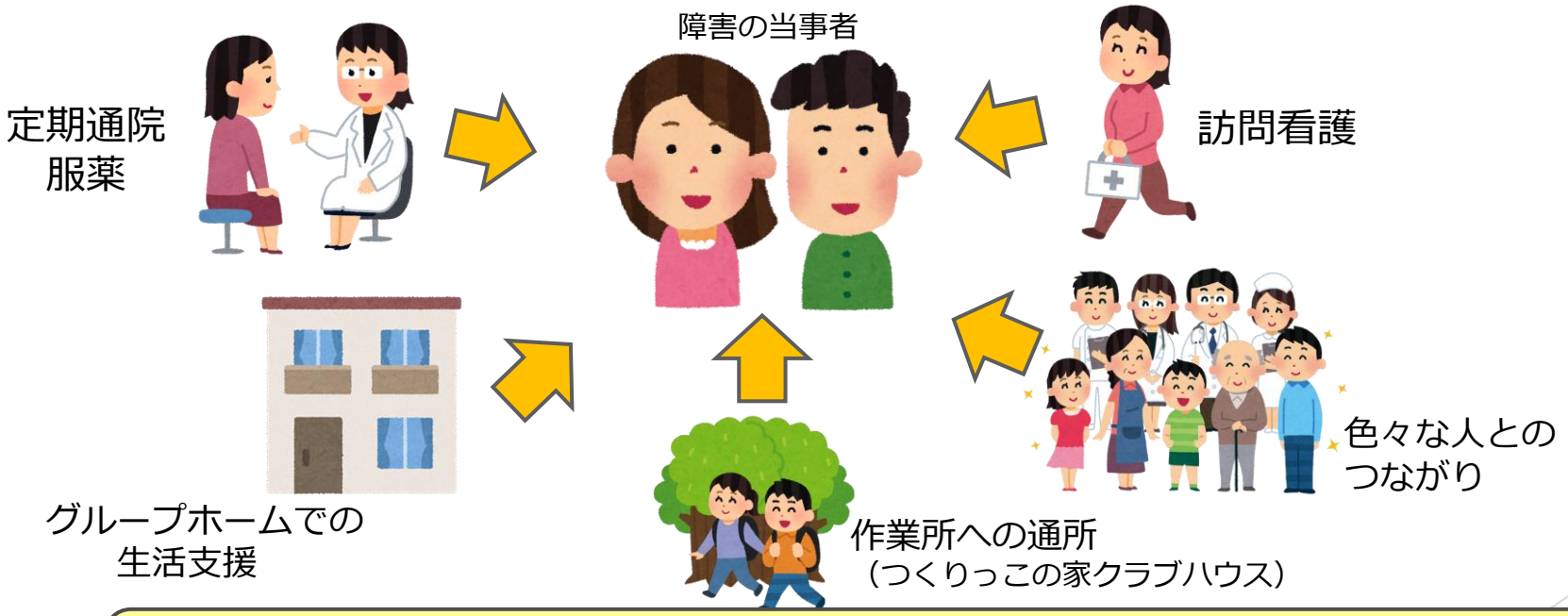
  - 相談支援、関係機関との調整、メンバー間の関係調整
  - 健康状態の見守り
  - 生活面での支援（掃除、洗濯、食事管理、金銭管理）
  - 防災訓練

  支援提供時間　朝 7：30～9：30　夕 16：30～18：30

みなとやのメンバー～精神障害とその特性～

- 精神障害とは

  何らかの脳の器質的変化あるいは機能的障害が起こり、さまざまな精神症状、身体症状、行動の変化が見られる状態です。
  主な精神疾患：統合失調症、気分障害、不安障害、発達障害など



医療の力に加え、生活面での支援や、人とのつながりを経験することで、
少しずつ回復し、多くの人が地域の中で暮らしていけるようになってきています。

みなとやのメンバー～グループホームでの生活～

食事　各自で用意しています

自分で料理





テイクアウトや外食



コレクティブハウスの
ミールを食べる事も（※）

生活の支援　メンバーの特性に応じた支援をしています



個別面談



月１回のミーティング



通院同行





いろいろな
困りごとの支援





金銭管理



防災訓練

グループホームでの暮らしを通じて、生活のリズムを整えるとともに、
日常生活に必要な力や、人との関わり方を少しずつ身に着けていきます。

みなとやのメンバー～コレクティブハウス居住者の一員として～

- 色々な役割　コレクティブハウスの一員としての役割も担っています。

月１回の
ミール作り



月１回の居住者会議



建物内の掃除





園芸

イベント

主な年間行事

1月　新年会
7月　花火を見る会
10月　お月見会
11月　防災体験
12月　クリスマス会

<u>コレクティブハウスの中に、グループホームがあることの良さは？</u>

（メンバーアンケートより）

・障害者だけのグループホームとは違い、一般の居住者と一緒のところが良い。
・役割があることで、いろいろな経験が出来る。
・他の居住者に見守られている安心感がある。居住者との関係も楽しんでいる。
・人とのふれあいを通じて協調性を学ぶことが多い。

権利擁護について～メンバーアンケート、ヒヤリハット～

- メンバーアンケート（2026年8月調査）

  「世話人の支援について思うこと」

  ・お互いに話せばわかるという実感がある。
  ・一人で暮らすのはさみしいし、こわいと思う。助けてくれる人が側にいるのは心強い。
  ・対話しながら、対応を変更してくれるところがいい。
  ・きめ細かくケアしてくれる。

- 支援者の様子・課題

  ・高齢化（メンバー、支援者ともに）
  ・Ｂ型との併用
  ・利用できるメンバーの限界

- 虐待・事故・ヒヤリハットについて

  ・虐待防止委員会（年4回）虐待防止研修（年1回）

入居者への聞き取り

2026年9月　月一会（定例会）にて

▶みなとやメンバーと暮らしてよかったこと

・自分がミール（夕食づくり）をしていると準備や片付けを手伝ってくれたり、共有部分の作業などをやってくれるので助かっている。

・みなとやメンバーとミールを一緒に食べていると心が和む。

・みなとやメンバーがいることを知って入居した。顔を知って生活することが心強い。

▶世話人から

・世話人の不在時のメンバー同士のやりとりを見守ってくれるなど助けてもらうことが多い。

・居住者は、みなとやメンバーの役割を意識しており、任せることを大事にしてハウスの中で、対等に接している。そのことでメンバーに自信がついている。

地域との連携

- 地域で暮らす一員として



グループホームとして、
地域の中でどんなことが出来るだろうか。

皆さんのお知恵をいただきたいと思っています。